

# 有料老人ホームにおける 食品タイプとろみ状流動食の活用

高齢者人口の増加に伴い、近年は介護福祉施設においても医療的なケアのニーズが高まっています。介護付有料老人ホーム「百々花」では、嚥下障害等により胃瘻を造設した高齢者の積極的な受け入れを行っております。また限られたマンパワーの中で、胃瘻を造設された方の摂食嚥下機能の回復を視野に入れた先進的な取り組みも行っております。

同施設では医薬品タイプにはない、食品タイプのとろみ状流動食を使用しておりますが、経腸栄養管理の実際について、斧田克子施設長にお話を伺いました。



おのだかつこ 施設長  
斧田克子 (看護師長)  
介護付有料老人ホーム「百々花」  
ももか

## 経腸栄養の実施状況

- 経腸栄養の対象者数：入居者全体（約80名）の約10%
- 経腸栄養に至った背景：嚥下障害や食事摂取量の減少など
- 投与ルート：胃瘻（一部、経鼻・腸瘻を含む）
- 投与回数：原則として朝夕2回投与
- 投与量：900kcal（約500mL）/日
- 使用製品：とろみ状流動食（1.8kcal/mL）



### 投与手順

- 1 投与前にとろみ状流動食をよく振る、または揉む  
※よく振ることで安定した流動性が得られるため
- 2 とろみ状流動食を胃瘻接続チューブと繋ぐ
- 3 とろみ状流動食をフックに吊り下げる  
※ひもで高さを調整 → この時チューブが真っすぐになるように調整する
- 4 とろみ状流動食の投与開始
- 5 パック内に残液がないか確認
- 6 フラッシングし、投与終了  
※不足分の水分は追加水として別途投与

#### 流動食の投与

とろみ状流動食の  
投与時間は20分程度

クレンメによる  
速度調節が不要



調節不要

#### 投与に携わるスタッフ

看護師 1~2名

### 1日の投与パターン

- 基本的に朝夕の2回投与  
朝：1パック（300kcal） 夕：2パック（600kcal）  
※エネルギー投与量：20~25kcal/kgで計算
- 使用しているとろみ状流動食は、1.8kcal/mLの高濃度タイプである為、流動食投与後に追加水を投与  
※水分必要量：25~30mL/kgで計算
- 右記基本パターンのほか、朝昼は経口で食事を摂り、夕方だけ投与することや、朝夕2パックずつ投与することもある

#### 【1日の基本投与パターン】



## コストの考え方 ～「お食事代」として入居者様に全額負担～

当施設では、食品タイプのとろみ状流動食の費用を「お食事代」として入居者様に全額負担いただいています。医薬品扱いの経腸栄養剤に比べると金額が高くなる為、ご入居いただく際には十分な説明を行うとともに、ご本人やご家族が医薬品扱いのものを希望される場合には、その意思を尊重するようにしています。

しかし現在までのところ、ほとんどの方から食品タイプのとろみ状流動食を使用することに同意いただいております。

同意いただいている背景としては、現在使用している製品が、医薬品タイプのものを使用するよりも**拘束時間の短縮が図れること等をメリット**として捉えておられるのだと思います。拘束時間の短縮は**リハビリテーション時間の確保**につながり、機能訓練を実施したことでお楽しみ程度の食事を摂っていただけるようになった方も中にはいらっしゃると思います。また職員にとっても経腸栄養にかかる作業負担の軽減につながっています。

## とろみ状流動食を使用するメリット

**入居者** 入居者様にとってのメリット

**施設** 施設にとってのメリット

### ① 投与時間の短縮

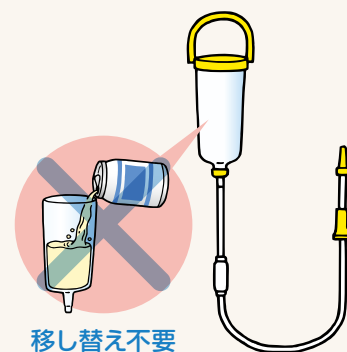
**入居者** **施設**

- ◆液体流動食は胃食道逆流を防止するために緩徐に投与する必要があるが、とろみ状流動食であれば、逆流リスクを低減しながら投与時間を短縮できる。
- ◆経腸栄養の短時間投与は…  
離床時間の延長による①リハビリテーション時間の確保、②褥瘡予防のほか、③他の入居者様との交流の機会の増加にも繋がり、**QOLの向上**にも大いに貢献している。

### ② 衛生的に投与可能

**入居者** **施設**

- ◆イルリガートルに移し替える必要がないため、空気中の細菌が混入する機会を減らすことができる。



### ③ 投与速度の調節が不要

**施設**

- ◆重力を利用して滴下するため、**いつ、誰が投与しても滴下速度が一定**で、スタッフ間のバラつきが生じない。

クレンメによる速度調節が不要 **調節不要**



### ④ 省スペースで保存可能

**施設**

- ◆容器サイズがコンパクトで、**災害時の備蓄**に適している。  
(当施設では常時2週間分をローリングストックとして保存)。



### ⑤ その他

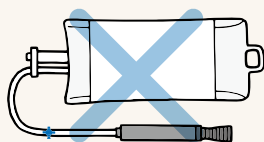
**施設**

#### ●投与器具の洗浄が不要

- ◆イルリガートルや接続チューブを使用しないため、**洗浄や消毒の作業負担を軽減**できる。

#### ●投与時に加圧が不要

- ◆自然落下で流れるため、半固形状流動食とは異なり、投与時の加圧が不要。



**加圧バッグ不要**

## 介護付有料老人ホーム「百々花」

- 開設  
2005年5月
- 総居室数  
個室65室・  
2人室9室



- 入居資格  
自立な方から要支援、  
要介護の認定の方。原則として入居時満65歳以上。  
自立の方は入居時満70歳以上の方。その他入居規定あり。